

第8節 屋外貯蔵所の基準（政令第16条）

第1 位置、構造及び設備の技術上の共通基準（政令第16条）

屋外貯蔵所の基準は、政令第16条の定めによるほか、次によること。

1 屋外貯蔵所の範囲

屋外貯蔵所は、貯蔵場所、附属工作物及び保有空地を規制の範囲とする。

2 保安距離（政令第16条第1項第1号）

(1) 保安距離については、4(2)で定める排水溝、ためます及び油分離装置の外側からの距離とすること。

(2) その他の基準については、第2章第1節製造所の基準第3の例によること。

3 貯蔵場所（政令第16条第1項第2号）

貯蔵場所については、政令第16条第1項第2号の定めによるほか、次によること。

(1) 貯蔵場所は、滞水しないように周囲の地盤面より若干高くすること。

(2) 貯蔵場所は、コンクリートその他これと同等以上の性能を有するもので舗装すること。

4 さく等（政令第16条第1項第3号）

政令第16条第1項第3号に規定する「さく等」については、次によること。

(1) さく等は、高さ0.5メートル以上とし、不燃材料で造ること。

(2) さく等の周囲には、排水溝、ためます又は第2章第1節製造所の基準第8の例により油分離装置を設けること。

5 保有空地（政令第16条第1項第4号）

保有空地については、政令第16条第1項第4号の定めによるほか、2(1)及び第2章第1節製造所の基準第4の例によること。

6 標識及び掲示板（政令第16条第1項第5号）

標識及び掲示板については、第2章第1節製造所の基準第5の例によること。

7 架台（政令第16条第1項第6号）

政令第16条第1項第6号に規定する「架台」については、規則第24条の10の定めによるほか、次によること。

(1) 架台は、建築基準法第2条に規定する「建築物」に該当しない構造のものであること。

(2) 架台高さは、その最上段に貯蔵する容器の頂部が6メートル以下となるようにすること。

(3) その他の基準については、第3章第2節屋内貯蔵所の基準第5の例によること。

第2 危険物をタンクコンテナに収納して貯蔵する場合（平成10年3月27日消防危第36号）

タンクコンテナを貯蔵する場合については、前記第1によるほか平成10年3月27日消防危第36号「危険物をタンクコンテナに収納して屋内貯蔵所又は屋外貯蔵所に貯蔵する場合の運用について」によること。

第3 屋外貯蔵所において危険物以外の物品を貯蔵する場合（平成10年3月16日消防危第26号）

屋外貯蔵所において危険物以外の物品を貯蔵する場合については、規則第38条の4の定めによるほか、平成10年3月16日消防危第26号「屋内貯蔵所等における危険物以外の物品の貯蔵に係る運用基準について」によること。

第4 リチウムイオン蓄電池を貯蔵又は取扱う場合

リチウムイオン蓄電池を貯蔵又は取扱う場合は、平成23年12月27日消防危第303号「リチウムイオン蓄電池の貯蔵及び取扱いに係る運用について」によること。

第5 ドライコンテナにより危険物を貯蔵する場合

ドライコンテナによる危険物の貯蔵については、令和4年12月13日消防危第283号「ドライコンテナによる危険物の貯蔵について（通知）」及び令和4年12月20日指危第58号「ドライコンテナによる危険物の貯蔵について（通知）」によること。